

明日への風の風

議会に新しい風を吹かせ、議会を変える



挑戦～開かれた議会とは何か

明日への風は「開かれた議会」とは何か。議員経験を通じて課題意識をもつようになりました。一般的には議会活動の過程が住民に見えること、見える化が進んでいること、住民が議会に参加しやすいことが挙げられると思います。議決結果の報告だけでなく、議案の審査の過程が十分に住民にわかりやすく示されていることが肝心です。また、住民が議会に参加しやすい環境が整っているかが重要です。住民が議会に政策提言をしたり公聴会や参考人誘致が進んでいること、市民との意見交換会などが頻繁に行われていることなど

です。その目的は、議会は議員のものではなく、あくまでも主権者である住民のものにすることです。三次市議会では、取り組んでいる内容もあれば、まだまだ不十分なところもあります。

例えば「議会モニター制度」などはその1つです。若い学生にもモニターになってもらい若い人も取りいれながら、テーマに沿って意見を出してもらうようにします。その意見から政策につながるような意見であれば政策化し政策立案するのが議会の役目だと思います。時間は当然かかりますが、漠然とした話から具体的な話に落としこんでいくことが次への課題だと考えています。
(掛田勝彦)

会派の理念

「^{あす}明日への^{かぜ}風」は、若手議員4人で構成されている会派です。

- 1 より多くの方に市政や議会に関心を持っていただけるよう、活動をオープンにし、市民参加型の会派を目指します。
- 2 次の世代が市政にチャレンジできるよう、未来を見据えて活動をしていきます。
- 3 思想信条を超えて、自由闊達^{かっかつ}な意見交換と議論を大切にします。

明日への風 出張報告会

あすカフェ
承ります

サロンや小グループなどの集まりにお声がけください。4人のメンバーが議会、市政の報告や、皆さんの声を伺いに参ります。お気軽にご相談ください。

各常任委員会の活動

常任委員会とは、議会に常に置かれている委員会で、条例などの議案、請願、陳情の審査を行います。三次市議会には5つの常任委員会が置かれ、任期は2年です。

総務 常任委員会

総務、財政、税務、企画やほかの委員会に属さないものの調査・審査を行います。

12月定例会では「三次市個人情報保護に関する法律施行条例（案）」の他、議案6件を審査し、可決しました。個人情報保護に万全を期するため、職員研修の充実や安全管理のための積極的な措置を講じることとして意見を付しました。

3月定例会では、企業からのふる

さと納税の促進に向けた「三次市企業版ふるさと納税基金条例」をはじめとした5議案が提出され、それぞれ全員一致で可決しました。企業版ふるさと納税の活用においては、企業社員派遣による専門分野の人材確保という活用も検討いただきたいと意見を付しました。（徳岡真紀）

産業建設 常任委員会

産業振興部、建設部、水道局及び農業委員会に属する事項に携わります。

12月定例会では議案2件の審査、（仮称）アグリパーク構想について所管事務調査をしました。三良坂産業団地約2.4ヘクタールを進出企業に売却する議案の審査では、交通量の増加に対して安全面での対策を望むと意見を付しました。

3月定例会では議案3件の審査をしました。「市道の認定及び変更」についての審査では、実際に現地を確認し、新たに認定した市道を市が維持管理していくにあたり、今後の修繕方法などを関係者と確認する必要があると意見を付しました。（増田誠宏）

教育民生 常任委員会

市民部、福祉保健部、子育て支援部、市民病院部および、教育委員会に属する事項に携わります。

3月定例会では、「三次市国民健康保険税条例の一部を改正する条例」を含める合計9件の議案審査を行い、委員会では全員一致で可決しました。

閉会中審査では、令和5年4月から高齢者の介護予防支援などの業務を委託している一般社団法人「地域包括支援センターみよし」を三次市社会福祉協議会に統合することについて、継続審査を行いました。この統合については、そ

れぞれの組織の役割分担や連携強化の具体策、そして、この統合で、どのような効果があるのかを審査しました。

その他に、教育施策として、史跡「寺町廃寺跡」第1～8次発掘調査総括報告書等の成果について、継続審査を行い、寺町廃寺跡を取り巻く経過や発掘調査の成果について説明を受け、今後の史跡整備事業スケジュールについて審査しました。（藤岡一弘）

広報広聴 常任委員会

議会の広報広聴に関する事項に携わります。

広報広聴常任委員会では、どうすれば市民のみなさんに議会を身近に感じていただき、一つでも多くの声を市政に届けていくことができるか、「開かれた議会」を目指して取組を進めています。年に4回発行する議会だより、19自治組織を回り、市民の皆さんとの対話を行う「議会報告懇談会」の企

画検討、高校生との対話の取組、毎月第4水曜日にケーブルテレビで議会の活動を報告する「市議会トピックス」の企画等行っています。現在、さらに開かれた議会を目指して、イベントブースへの出展や、議会モニター制度の導入に向けて調査研究を行っています。

（徳岡真紀）

議会活動報告

6月定例会、9月定例会での一般質問の内容や、常任委員会での取り組みなど、各自が取り組んでいることをお伝えします。

掛田勝彦



シティプロモーションとは、一般的に街の認知度向上やブランドの向上等を目的として地方自治体によって行われている活動ですが、街づくりにも大いに関係する事業です。人口減少や少子高齢化で街を支える人口規模も今のままでは予想以上に縮小する可能性があります。地域内で稼ぎ、地域で消費しさらに地域で稼ぐといった地域内の経済循環もしっかりやっていると、人口減少や少子高齢化で経済基盤が縮小していきます。地域の経済基盤が衰えようとする中で、外貨を稼ぎ、外需を作り、地域外から人を継続的に本市に取り込む必要があります。これらは持続的な街づくりを進めていくためのものです。現在、三次市で行っているシティプロモーション事業について3月定例会で質問を行いました。

藤岡一弘



2022年10月～2023年3月までの定例会一般質問では、市民の健康と命の安全確保について、そして、農業振興について質問しました。

市が管理する116台のAED（自動体外式除細動器）のうち、24時間使用可能なAEDは2台であり、割合は約1.7%です。市民の緊急時の命と安全を守るため24時間使用可能なAEDを増やすことを提案しました。また、近年増加傾向である带状疱疹への対策として、ワクチンを必要とする市民の方々への接種費用助成の提案を行いました。

農業振興については、コロナ禍や農業資材高騰を背景とした厳しい農作物生産の状況に対して、本市がどのように施策を展開していくのか質問し、農業支援の継続と拡充の必要性を訴えました。

増田誠宏



12月定例会では、①三次版スマートシティ構想、②消防本部・三次消防署庁舎移転、③芸備線の現状について質問しました。

消防署移転については、用地選定の状況や比較検証の必要性を問いました。

3月定例会では、①小中学校のICT教育、②脱炭素社会の実現に向けて自然エネルギーの導入について質問しました。

小中学校で使用するタブレットドリルへの補助を、保護者負担軽減のため継続すべきでないか。脱炭素社会実現のためカーボンニュートラル宣言をする必要がある。市役所内の体制づくり・計画策定をした上で、国の交付金を活用しながら、地元企業によるエネルギーの地産地消を進めていくことについて、質問・提案しました。

徳岡真紀



3月定例会では、①「学校教育における子どもの生きづらさ」について、②地域課題解決のための集落支援員制度の効果的な運用」についての2点を質問しました。①「学校教育における子どもの生きづらさ」については、主に、増え続ける不登校児童生徒の対策について、会派で視察したスクールエスの活用等、多様な居場所づくりの提案を行いました。また、校内環境や校則の見直し、子どもたちの意思決定への参加、地域や民間との連携などの必要性を問いました。さらに4月にこども基本法が策定されることに伴い、本市での子どもの社会参加、意思決定の場づくりを求めました。②「地域課題解決のための集落支援員制度の効果的な運用」については、空き家バンク登録の推進等、地域課題解決のために地域密着で活動されている集落支援員の待遇改善を問いました。

三次市議会の様子をインターネット配信でご覧いただけます。

<http://www.miyoshi-city.hiroshima.stream.jfit.co.jp/>



「中国電力 島根原子力発電所」視察

三次市は、広島県と島根県で締結されている「原子力災害時における広域避難に関する協定」により、広島県と協議した上で、島根県雲南市からの広域避難者を受け入れることとしています。

島根県松江市にある島根原子力発電所を訪問し、中国電力の方々から、島根原子力発電所での発電事業の取組と安全性確保の取組についてご説明いただき、意見交換を行いました。



「三良坂地域子育て支援センターみつばち(ネウボラみよし)」視察

ネウボラみよしとは、市民のみなさんが安心して妊娠・出産・子育てができるようお手伝いをする、子育て支援の身近な相談窓口です。お母さんやお子さんの健康、子育ての悩み等さまざまな相談に対応しています。今回、三良坂支所内に設置されている「三良坂地域子育て支援センターみつばち」を訪問し、子育て支援の現場施設や活動内容について話を伺いました。



飯南町「定住促進賃貸住宅建設事業」視察

島根県飯南町に定住促進賃貸住宅建設事業の行政視察として訪問しました。この事業は、定住促進賃貸住宅（セミオーダー式）を40歳以下の夫婦や子育て世帯に貸し出すことで、定住人口の増加、小学校児童数の確保、移住者への住まいの確保することが目的です。さらに、入居開始日より25年後に入居者に土地建物の譲渡が可能となります。

この事業の効果と課題を視察させていただき、本市での定住対策への政策提案に繋がっていきたく思います。



スクールエス「SCHOOL“S”」視察見学

2月21日、東広島市にある不登校等の小中学生を支援する「広島県教育支援センター SCHOOL“S” (スクールエス)」を見学に伺いました。

スクールエスは、広島県内に在住の小中学生を対象に、リアルとオンラインで運営されています。ここではカリキュラムにとらわれず、1日の時間割を自分で決め、自分のペースで様々な活動ができ、相談や悩みを打ち明ける場もあります。大人を先生とは呼ばず、ニックネームで呼びあい、子どもとの関係性づくりや学校っぽくない心地よい居場所づくりにも非常に配慮されています。毎日40～50名がリアルとオンラインで活用されており、年々登録人数も増えているとの説明を伺いました。



一般社団法人「持続可能な地域社会総合研究所」視察

研究所では藤山浩所長により『地域診断から始まる地域政策形成と持続可能な地域づくり』という内容で、近隣市町の若手議員とともに研修を受けました。三次市の人口予測シミュレーション、田園回帰の実態や市町村の定住対策例、循環型社会への始まりなどについて講義がありました。

現地視察先の益田市二条地区地域自治組織「二条里づくりの会」では、毎年10人前後の安定的な転入が実現できている要因、空き家の確保・整備事業、ICTを活用した鳥獣害対策について説明を受けた後、関連する施設を視察しました。



「岩屋寺」登頂!

会派で市内各地域を知る取り組みの一つとして、島敷町の標高350mの山腹に建つ、岩屋寺まで麓から遊歩道を歩いて登りました。ご住職よりお寺の由来だけでなく、三次市の歴史についてもご説明いただきました。

